

*京都府公立中学校長会会長賞

「プライスレス」

相楽東部広域連立立笠置中学校 3年
平 田 夢 晏

あなたは、「プライスレス」という言葉を知っていますか。プライスレスとは、値段がつけられない程価値があるという意味です。初めてこの意味を知った時、そんな物が実際にあるのかなと思いました。

私が住んでいる南山城村は、京都府唯一の村です。村と聞いて、皆さんは不便な所だと思ってしまうでしょう。実は、その通りなのです。どこかへ出かけるには、ワンマン列車に乗らないといけないのですが、本数は1時間に1本しかありません。大雨や突風で、すぐに運休になり、さらに猪や鹿にぶつかるると一時的に止まってしまいます。ある時、塾帰りに列車に乗っていると、駅まであと少しの所で猪とぶつかり、列車が止まったことがあります。その時は、いつ出発するのかとても不安でした。しかし、同乗していた他の村人達は、

「あ、また止まったんか。いつもの事やわ。」と言って、普段と変わらない様子でした。このような列車に対し、通勤などで利用している人からは不平不満をよく聞きます。さらに、駅には自動改札がありません。だから、運転手さんに切符を渡して降りなければいけないのです。不便なのは駅だけではなく、村にはコンビニやスーパーが一つもありません。もし、急に文房具が必要になった時は自力で買いに行けないので、母に車で隣の市まで連れていってもらいます。文房具一つを買うためだけに15分もかけて行くのは、とても疲れます。こんな村が、私はあまり好きではありませんでした。

そんな村とは対照的な東京にとっても憧れていました。芸能人に会いたい。テレビで見た有名な場所に行きたい。修学旅行で東京へ行く時、そんなことを考えてわくわくした気持ちでいっぱいでした。実際に東京駅に着くと、ホームがたくさんあり、電車が次から次へと来ていました。班で電車に乗る時、1本乗り過ごしてしまったのですが、すぐに次の電車が来たのは少し驚きました。東京の街中は人が多く皆が足早に歩いていました。お店もたくさんあり、夜遅くまで営業していました。東京スカイツリーから街を見ると、車も家も全て米粒に見え、密集しているのがよく分かりました。夜になって空を見上げると、真っ黒で星は一つも見えません。空気も汚く、息苦しく感じ、私はあまり住みたくないと思いました。

小学校の時は好きじゃなかった村が、中学校で「ふるさと学習」を通じて、だんだん村の良さが見え、好きになっていきました。それは、周りが木々で囲まれている自然があることです。毎日目にするものなので何も思わなかったのですが、東京に緑が少なかったことから気が付きました。さらに、南山城村では夜になると、満天の星が見え、水がきれいなのでホタルも見られます。東京の夜は、星は見えませんが夜景は見えます。しかし、それは人工の

光。自然にできたものではありません。それに対し、南山城村ではいつでも自然の光を見ることができます。つまり、村は空気がきれいなのです。また、東京ではクワガタなどをお金で買うと聞きますが、村では家の窓にとまっていることがあります。これらは全て、自然がたくさんあり、空気がきれいな南山城村だからこそのものなのです。

「ふるさと学習」で学んだ「サギソウ」という花は、日本の準絶滅危惧種に指定されています。自然が豊かなこの村だからこそ、サギソウを増やすことができるのだと思います。そのサギソウに寄ってくるハッチョウトンボが村には生息しています。このトンボは、体長2センチで日本一小さなトンボとして有名です。毎年、その姿を写真に収めようと村を訪れる人もいます。このハッチョウトンボもまた、京都府の準絶滅危惧種に指定されています。これらが生息しているのも、自然が豊かだからだと実感しました。村にとっては当たり前でも、都市部からするとかけがえのないものであることも分かりました。

都会は便利ですが、豊かな自然はありません。村は不便ですが、豊かな自然があります。便利な生活にするために開発を行うと、自然破壊が起こります。しかし、南山城村は開発をしないと決めたことで、豊かな自然が残りました。この自然こそ「プライスレス」なのです。私は、このプライスレスな自然を守り、人が住みやすいような村づくりがしたいです。